

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670200033		
法人名	社会福祉法人 緑樹会		
事業所名	グループホーム 安樹		
所在地	徳島県鳴門市大麻町松字東山田57-10		
自己評価作成日	平成30年9月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成30年11月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は自然に囲まれ、季節に応じた風景を楽しむことが出来る環境にある。「地域社会に開かれた信頼され愛される施設目指す」という法人理念の下、盆踊りなど季節に応じた行事を行い、家族や地域の方にも参加していただいたり、地域小学校の行事参加や近隣飲食店での食事会など来ていただくだけでなく、こちらから出向き、互いに交流を深めるとともに外出する機会も設けている。運営推進会議でも民生委員の他、多方面の方々に参加していただき地域の実情・要望等把握できるよう心掛けている。また事業所として「一日一笑」という理念を掲げ、利用者様だけでなく職員も含め全員が笑顔で過ごせるアットホームな雰囲気づくりを心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、地域に開かれた事業所を目指し、季節ごとに地域住民や家族との交流会を開催したり、地域包括支援センターと協力して、認知症ケアの啓発活動を地域に向けて発信したりしている。職員は、利用者が何気なく発した言葉等を大切に、日頃のケアに活かしたり、プラン作成時に利用者の意向・思いとして提案したりすることもある。健康管理や医療面では併設施設の看護師の支援を受け、協力医療機関との連携体制を構築している。管理者と職員は、利用者一人ひとりの笑顔が絶えない毎日の暮らしを目指し、信頼されるケアの実践に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念と別に、事業所理念として「利用者様に自由な時間を提供する」「良質な環境を整える」「一日一笑、毎日笑顔の絶えない時間を提供する」を掲げ毎日唱和し、職員全体で実践している。	管理者と職員は、開設当初からの理念を大切に捉えている。笑顔の絶えない毎日の暮らしを目指し、利用者の住み慣れた地域での生活支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設行事や地元小学校・地域の行事への参加や併設サービスの方々等互いに行き来したり、地域での買い物会や食事会を定期的に行い、地域との関わりを持つ機会を設けている。	事業所は、自治会に加入し、清掃活動に参加したり、小学校の運動会に出向いたりして、地域との関わりを設け、交流を図っている。職員は、地域で開催される認知症サポーター養成講座に参加し、認知症の理解に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設事業所と協力し、地元老人会等を対象に施設見学会や相談、また認知症サポーター養成講座に参加するなどし、認知症の理解や日常の取り組みなど説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用者、家族また民生委員の他、多方面の方々に参加していただき現状報告や研修、要望・相談、地域の実情等をお伺いし、事業所の取り組みに活かしている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。事業所は現状報告や行事報告を行っている。参加メンバーから、質問や意見、要望があり、活発な意見交換の場となっている。出された意見は、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、月報等により現状報告を行うとともに、月2回、市の介護相談員の受け入れをし、年2回、市職員を交え介護相談員の報告会の開催。また運営推進会議へも参加していただいている。	事業所は、市担当窓口を訪問し、申請書類等を手渡している。その際に、担当者に事業所の実状について伝え、意見やアドバイスをすることで、協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内での研修会や事業所内での委員会活動を通して身体拘束についての知識や理解を深めている。現在、身体拘束を行っている利用者はいない。	管理者や職員は、法人内外での研修を受講し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は玄関を解錠して、見守りを重視した自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体での研修会を開催し知識の習得とともに虐待防止の徹底及び意識の統一を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内で研修会を開催し、権利擁護に関する制度について学習し、全職員が制度の内容を把握できるように努め、人権を尊重したサービス提供ができるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書に基づき十分な説明を行うとともに疑問点等の確認を行い、ご理解頂き、同意し契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気軽に要望等が話せる雰囲気作りをし、家族等の来訪時には職員からお声掛けさせて頂いている。また意見箱の設置や受付窓口責任者や第三者委員等を明示し、受付体制を整備している。意見に対しても迅速に対応するよう努める。	事業所では、家族の来訪時には、職員から声をかけ、意見や要望を出しやすい雰囲気づくりに努めている。出された意見は記録し、組織で迅速に検討し、運営面に反映している。経過や結果は、利用者や家族に伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員面接やワーカー会、定期的なラウンドを行い、意見や要望を聞く機会を設け運営に反映させている。	事業所では、定期的に職員から意見や要望を聞く機会を設け、運営面に反映している。また、職場環境や条件等の整備にも努め、職員の働く意欲の向上や質の確保に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己点検シートにて自己目標の設定、考課表により目標達成度等の自己・他己評価。職員面接により就業状況、職場環境等の聞き取りを行い、環境整備ややりがいに繋がるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で職員全体を対象とし年間計画を立て実施している。また外部研修等もなるべく多くの職員が参加できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への積極参加や県外事業所への現場実習等を行い、交流を深めネットワークづくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時、ご本人との面談にて、要望・相談事等をお伺いするとともに、定期的にお声掛けをすることで信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時や来訪時、ご家族から要望・相談事等がないかお伺いするとともに、定期的にお声掛けや現況報告することで信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった場合には現状把握に努め状態を見極める。また他サービス担当者とも相談しながら「その時その人に必要」なサービスに繋げられるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の能力に合わせ、調理や洗濯等出来ることはして頂き、出来ない所はお手伝いさせて頂き共に協力しながら生活する関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事参加や外出など一緒に楽しんで頂ける機会の提供や定期的に現況方向を行い、家族に相談を持ち掛けることで一緒に考えて、その都度対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの生活歴を把握し、時には家族のご協力も頂きながら継続した生活が送れるように支援している。	事業所は、利用者との日頃の関わりのなかで、一人ひとりの生活歴の把握に努めている。家族の協力を得て、利用者の会いたい人や行きたい場所との関わりを継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活や行事参加を通して、利用者同士の関係構築に努めるとともに、常に利用者同士の関係把握を行い、過ごしやすい環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も状況に応じてお見舞いや、他施設訪問にて現状把握を行い、継続して関わりを持っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、生活歴や希望を本人や家族から聞き取る。また日頃の会話や行動から本人のご意向をくみ取り、その人らしい生活が送れるよう支援している。	事業所では、日頃の関わりの中で、一人ひとりの意向の把握に努めている。利用者の言葉をケース記録に記載して、職員間で記録を共有している。本人本位に検討し、その人らしい生活支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前面談にて、本人や家族からライフスタイル等を聞き取り、サービスに反映出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的なアセスメント表の更新、細かな変化でも必ず情報共有し、職員間で現状把握や統一した支援方法が出来るよう努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の現状把握、また本人や家族の希望・要望をふまえ、他職種協同で会議を行い、様々な面から考え、現状に即した計画を立てている。	事業所は、利用者や家族の意向や希望を把握し、職員や関係者の気づき等を反映した介護計画を作成している。利用者一人ひとりの個別ファイルをもとに、計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルにて日常の生活状況や様子について記録し、情報共有や支援方法の見直し等に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に利用者の現状把握を行い、個々の生活面や趣向面等、その時々々の要望に合った支援が出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買物や食事などで近隣に出掛けたり、これまでのかかりつけ医での受診等、地域資源を活用しつつ、顔なじみの関係が継続できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医や希望する医療機関を確認し、継続して受診して頂く。また事業所側からも相談や報告を行い関係構築に努めている。	事業所では、利用者や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。職員は、適切な医療の受診に向けて、家族とともに、医療機関の受診に付きそい、日ごろの様子や変化を医師に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に併設施設の看護師に相談・報告を行っており、医療的説明等は看護師を通じてかかりつけ医等に報告・相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は定期的に伺いに行き、医師や看護師に状態確認を行っている。またソーシャルワーカーとも連携し、家族を交えて退院後の対応等話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に事業所の方針や対応説明を行うとともに、入居時や状態変化に応じ、その都度本人・家族のご意向、医師の意見をふまえながら今後の方向性、対応について検討、決定している。	事業所では、入居時に、重度化した場合の方針や対応方法を説明している。利用者や家族の意向を踏まえ、医療機関と連携を図りながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応についてマニュアルを作成している。また法人内で研修等を行い、実践できるよう訓練している。消防署員より搬送時に救急搬送依頼書があればスムーズに搬送できるとのことで用紙を頂き準備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に研修会を開催するほか、日中や夜間を想定した訓練を実施している。また消防や役所等とも情報交換を行い連携を図っている。	事業所では、年2回、消防署の協力を得るなどして、利用者とともに避難訓練を行っている。地域住民や消防分団に協力を呼び掛け、関係の構築に努めている。併設する特別養護老人ホームとの連携体制も築いている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			ユニット1	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや倫理に関する研修を行い、プライバシーの確保、自尊心を傷つけないケア、お声掛けを意識し、快適に生活できるよう支援している。	事業所では、トイレ誘導や入浴支援に際して、利用者の気持ちを大切に考え、さりげないケアを心がけている。職員は、利用者一人ひとりの誇りを尊重した対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活で、利用者が思いや希望が表現しやすい雰囲気作りをし、職員も気付きや傾聴を意識して自己決定が出来るように支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムに把握し、生活活動や趣味活動など本人のペースや希望、また日々の心身状態の変化にも配慮しながら支援するよう心掛けています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で衣類を選んでいただき、整容もできない部分を支援している。馴染みの理美容店がある方には継続して利用できるよう支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や片付けなど役割を持って参加して頂くとともに、利用者の好みを考慮した献立、定期的な食事会の開催。また苑内の菜園と一緒に食材を収穫するなど食事に対し楽しみが持てるよう支援している。	事業所では、利用者と職員が、食事の準備や調理、後片付けと一緒に楽しみながら行っている。献立は、併設施設の管理栄養士のアドバイスを受け、利用者の好みや旬の食材を活かして職員が作成している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事・水分摂取量のチェックを行うとともに、メニュー等の栄養バランスや摂取量の少ない方への対応等を併設施設の管理栄養士にチェック・アドバイスを受け適切に栄養・水分摂取が出来るよう支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施。必要に応じて本人や家族に説明し、随時の歯科往診と週1回、歯科衛生士による歯科クリーニングを実施し口腔内の清潔保持に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の排泄チェックを行い、個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を中心に排泄誘導を行い自立に向けたケアを行っている。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。利用者一人ひとりの状態に合わせて、紙パンツやパットを使用している。昼間は、全利用者のトイレでの排泄を支援している。夜間はポータブルトイレを使用する利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取と適度な運動や腹部マッサージ、看護職員とも相談しながらなるべく自然排便が出来るよう配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯等、希望に沿った支援を心掛けている。拒否のある方に対しても、職員やタイミング、声かけの内容を変えるなどして入浴して頂けるよう工夫している。	事業所では、利用者に入浴の時間帯の希望を聞き取り、入浴支援に取り組んでいる。入浴を拒む利用者には、言葉かけのタイミングを変えたり、声かけの職員を交代したりしている。利用者が納得して、ゆったりと気持ちよく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活リズムを把握し、体調に合わせて日中活動の促進等をすることで昼夜のリズム作りを行うとともに、不眠傾向にある方は、医師や家族と相談しながら対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の既往や服薬内容・目的の理解、服薬チェック表等を活用し、誤薬防止に努める。また定期受診時等に本人の状態や日常の記録を主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時のアセスメントや入居後の行動・言動から本人の出来ること、やりたい事を見出し、役割や楽しみがあふ生活が出来よう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣でのお食事会やお買い物会、お花見やお散歩など定期的実施するとともに、年1回県内外へ遠足を企画するなど家族にもご協力いただきながら外出する機会を設けている。	事業所では、戸外で、利用者にお抹茶や菓子を提供し、利用者の笑顔がこぼれる時間を過ごしている。香川県にうどんを食べに行ったり、蘭の花を見に行ったりして、利用者の希望によって、外出の機会を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望、家族の了解の下、お金の所持をし、パンなど施設への訪問販売や買い物会など自分で払えるようサポートする。管理が難しい方は事業所で管理を行い定期的に本人・家族にご確認いただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ、家族にもご協力いただきながら、手紙や電話での会話ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の気分や体調に考慮し、照明や温度調整を行っている。季節に応じた雰囲気作りを心掛け、居心地がよくリラックスできる空間づくりに配慮している。	共用空間のリビングは、天窓から光が差し込み、明るい空間となっている。利用者と職員が談笑したり、季節感のある花や利用者の作品を飾るなどして、利用者にとって居心地のよい環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに椅子を複数設置して一人で過ごしたり、気の合う利用者同士が会話を楽しむスペースがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの家具等を持ち込んで頂き自宅での生活が継続できる環境作りを行い、居心地よく安心し、個性のある居室づくりが出来るようにしている。	事業所では、利用者に、以前から使用していた馴染みの家具や小物類を居室に持ち込んでもらっている。家具を使い勝手の良い配置にすることで、安全面に配慮している。清潔を保持し、利用者が落ち着いて過ごすことができる居室づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活全般において残存能力の維持が出来るようサポートし、各居室には名札、トイレ等も分かりやすいように表示することで自立した生活が送れるよう工夫している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念と別に、事業所理念として「利用者様に自由な時間を提供する」「良質な環境を整える」「一日一笑、毎日笑顔の絶えない時間を提供する」を掲げ毎日唱和し、職員全体で実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	施設行事や地元小学校・地域の行事への参加や併設サービスの方々等互いに行き来したり、地域での買い物会や食事会を定期的に行い、地域との関わりを持つ機会を設けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設事業所と協力し、地元老人会等を対象に施設見学会や相談、また認知症サポーター養成講座に参加するなどし、認知症の理解や日常の取り組みなど説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用者、家族また民生委員の他、多方面の方々に参加していただき現状報告や研修、要望・相談、地域の実情等をお伺いし、事業所の取り組みに活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、月報等により現状報告を行うとともに、月2回、市の介護相談員の受け入れをし、年3回、市職員を交えて介護相談員の報告会の開催。また運営推進会議へも参加していただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内での研修会や事業所内での委員会活動を通して身体拘束についての知識や理解を深めている。現在、身体拘束を行っている利用者はいない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体での研修会を開催し知識の習得とともに虐待防止の徹底及び意識の統一を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内で研修会を開催し、権利擁護に関する制度について学習し、全職員が制度の内容を把握できるように努め、人権を尊重したサービス提供ができるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書に基づき十分な説明を行うとともに疑問点等の確認を行い、ご理解頂き、同意し契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気軽に要望等が話せる雰囲気作りをし、家族等の来訪時には職員からお声掛けさせて頂いている。また意見箱の設置や受付窓口責任者や第三者委員等を明示し、受付体制を整備している。意見に対しても迅速に対応するよう努める。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員面接やワーカー会、定期的なラウンドを行い、意見や要望を聞く機会を設け運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己点検シートにて自己目標の設定、考課表により目標達成度等の自己・他己評価。職員面接により就業状況、職場環境等の聞き取りを行い、環境整備ややりがいに繋がるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で職員全体を対象とし年間計画を立て実施している。また外部研修等もなるべく多くの職員が参加できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への積極参加や県外事業所への現場実習等を行い、交流を深めネットワーク作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時、ご本人との面談にて、要望・相談事等をお伺いするとともに、定期的にお声掛けをすることで信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時や来訪時、ご家族から要望・相談事等がないかお伺いするとともに、定期的にお声掛けや現況報告することで信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった場合には現状把握に努め状態を見極める。また他サービス担当者とも相談しながら「その時その人に必要」なサービスに繋げられるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の能力に合わせ、調理や洗濯等出来ることはして頂き、出来ない所はお手伝いさせて頂き共に協力しながら生活する関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事参加や外出など一緒に楽しんで頂ける機会の提供や定期的に現況方向を行い、家族に相談を持ち掛けることで一緒に考えて、その都度対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの生活歴を把握し、時には家族のご協力も頂きながら継続した生活が送れるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活や行事参加を通して、利用者同士の関係構築に努めるとともに、常に利用者同士の関係把握を行い、過ごしやすい環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も状況に応じてお見舞いや、他施設訪問にて現状把握を行い、継続して関わりを持っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、生活歴や希望を本人や家族から聞き取る。また日頃の会話や行動から本人のご意向をくみ取り、その人らしい生活を送れるよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前面談にて、本人や家族からライフスタイル等を聞き取り、サービスに反映出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的なアセスメント表の更新、細かな変化でも必ず情報共有し、職員間で現状把握や統一した支援方法が出来るよう努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の現状把握、また本人や家族の希望・要望をふまえ、他職種協同で会議を行い、様々な面から考え、現状に即した計画を立てている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルにて日常の生活状況や様子について記録し、情報共有や支援方法の見直し等に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に利用者の現状把握を行い、個々の生活面や趣向面等、その時々要望に合った支援が出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買物や食事などで近隣に出掛けたり、これまでのかかりつけ医での受診等、地域資源を活用しつつ、顔なじみの関係が継続できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医や希望する医療機関を確認し、継続して受診して頂く。また事業所側からも相談や報告を行い関係構築に努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に併設施設の看護師に相談・報告を行っており、医療的説明等は看護師を通じてかかりつけ医等に報告・相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は定期的に伺いに行き、医師や看護師に状態確認を行っている。またソーシャルワーカーとも連携し、家族を交えて退院後の対応等話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に事業所の方針や対応説明を行うとともに、入居時や状態変化に応じ、その都度本人・家族のご意向、医師の意見をふまえながら今後の方向性、対応について検討、決定している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応についてマニュアルを作成している。また法人内で研修等を行い、実践できるよう訓練している。消防署員より搬送時に救急搬送依頼書があればスムーズに搬送できるとのことで用紙を頂き準備している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に研修会を開催するほか、日中や夜間を想定した訓練を実施している。また消防や役所等とも情報交換を行い連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや倫理に関する研修を行い、プライバシーの確保、自尊心を傷つけないケア、お声掛けを意識し、快適に生活できるよう支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活で、利用者が思いや希望が表現しやすい雰囲気作りをし、職員も気付きや傾聴を意識して自己決定が出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムに把握し、生活活動や趣味活動など本人のペースや希望、また日々の心身状態の変化にも配慮しながら支援するよう心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で衣類を選んでいただき、整容もできない部分を支援している。馴染みの理美容店がある方には継続して利用できるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や片付けなど役割を持って参加して頂くとともに、利用者の好みを考慮した献立、定期的な食事会の開催。また苑内の菜園と一緒に食材を収穫するなど食事に対し楽しみが持てるよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事・水分摂取量のチェックを行うとともに、メニュー等の栄養バランスや摂取量の少ない方への対応等を併設施設の管理栄養士にチェック・アドバイスを受け適切に栄養・水分摂取が出来るよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施。必要に応じて本人や家族に説明し、随時の歯科往診と週2回、歯科衛生士による歯科クリーニングを実施し口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の排泄チェックを行い、個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を中心に排泄誘導を行い自立に向けたケアを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取と適度な運動や腹部マッサージ、看護職員とも相談しながらなるべく自然排便が出来るよう配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯等、希望に沿った支援を心掛けている。拒否のある方に対しても、職員やタイミング、声かけの内容を変えるなどして入浴して頂けるよう工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活リズムを把握し、体調に合わせて日中活動の促進等をすることで昼夜のリズム作りを行うとともに、不眠傾向にある方は、医師や家族と相談しながら対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の既往や服薬内容・目的の理解、服薬チェック表等を活用し、誤薬防止に努める。また定期受診時等に本人の状態や日常の記録を主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時のアセスメントや入居後の行動・言動から本人の出来ること、やりたい事を見出し、役割や楽しみがあず生活出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣でのお食事会やお買い物会、お花見やお散歩など定期的実施するとともに、年2回県内外へ遠足を企画するなど家族にもご協力いただきながら外出する機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望、家族の了解の下、お金の所持をし、パンなど施設への訪問販売や買い物会など自分で払えるようサポートする。管理が難しい方は事業所で管理を行い定期的に本人・家族にご確認いただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じ、家族にもご協力いただきながら、手紙や電話での会話ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の気分や体調に考慮し、照明や温度調整を行っている。季節に応じた雰囲気作りを心掛け、居心地がよくリラックスできる空間づくりに配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに椅子を複数設置して一人で過ごしたり、気の合う利用者同士が会話を楽しむスペースがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの家具等を持ち込んで頂き自宅での生活が継続できる環境作りを行い、居心地よく安心し、個性のある居室づくりが出来るようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活全般において残存能力の維持が出来るようサポートし、各居室には名札、トイレ等も分かりやすいように表示することで自立した生活が送れるよう工夫している。		